スポーツ研究所シンポジウム

室伏広治氏ら スポーツの魅力を語る

第10回専修大学スポーツ研究所シンポジウムが11月29日に生田キャンパスで開催され、アテネ五輪金メダリストの室伏広治氏らが講演を行った。615人収容の大教室は学生や一般人で超満員となった。

東京五輪・パラリンピックまであと1000日となったこの日、室伏氏は自らの選手経験を交えながら東京大会の魅力を語った。自身は五輪と世界選手権に計14回の出場で5つのメダルを獲得したが、その裏には9回の失敗があったとも述べ、「チャレンジすることが大事。失敗することのほうが多いが、自分の力で道を切り拓いてほしい」と学生にメッセージを送った。

続く第2部シンポジウムでは指導者やボランティアなど「支えるスポーツ」をテーマに、日本バレーボール協会ハイパフォーマンスサポート委員の吉田清司法学部教授、JTUパラリンピック対策チームリーダーの富川理充商学部准教授、東京五輪で金メダルの期待がかかるレスリングの中村倫也選手（博報堂DY・H28商卒）が、それぞれの立場から意見を述べた。

↑講演後、学生の握手の求めに応じる室伏氏

↑左から中村選手、富川准教授、吉田教授